

平成23年5月18日（水） 大井西中学校 参加者36名

19:00 開会

- ・市長あいさつ
- ・自己紹介（副市長、教育長）
- ・テーマに対する説明（改革推進室長）

参加者：支所にどのような課ができるのか、どのようなサービスができるのか、具体的に教えてもらいたい。例えば道路課の保険の申請、水道に関する苦情、受け付けてもらえるのか。トータル的にできるのか、たらい回しにならないか。

支所付近の道路は渋滞する。今の消防本部は確か商業地だったと思うが、支所付近は住宅地。通勤路、通学路でもある。騒音の問題はどうか。工事中、循環バスの出入りは可能か、駐車場の確保はできるのか。3月の確定申告は複合施設でできるのか。総体的に考えてもらいたい。

市長：窓口サービスは合併時から課題だった。建設部門、教育委員会が本庁に移った場合、支所でも対応できるようにしたい。利用頻度が高いもの、身近なものではできるようにしていきたい。既に国民健康保険の保険証は即日交付ができなかったのをできるようにしました。ふれあい座談会等でもご意見をいただいたもののうち、支所の各担当の中で本庁に行っていたかなければならなかったもの、不便だご指摘をいただいたものを調査し、必要なものを検討しています。建設中も改善できるもの、支所が新設されてできるもの、順次お示ししたいと考えております。

支所前の道路は、交差点の改良も含め、セットバックして拡幅していきたい。救急車は現場に戻る前に移動する場合があります。道路状況によっては表だけでなく、裏口から出る場合もあると思います。駐車場の確保は現状でも課題で台数は調査させていただいた。最も置きにくくなるのは解体して建設する間。現状市民の方がご利用になれるのは約67台。整備が終わった後は約77台。建設中は70数台程度になると思われます。ご不便をおかけしないように、万が一工事の方法によっては台数が確保できないというようなことになった場合は近隣地の活用も考えたい。

確定申告については、支所イメージでお示しした2階部分、約1,000㎡の中で多目的な活用が図れるスペースも必要ではないかと考えます。また、建設中も仮設庁舎2階に会議室をつくりますので、そこで対応ができます。

副市長：道路課の保険の受付業務、水道の相談など、必要なものは設けていきたい。

参加者：高齢者関係の用紙をもらいにいっても用が足りない。本庁に行ってもほしいと言われる。行こうと思ってもバスがない。庁舎連絡のバスを出してもらいたい。高齢者は買い物にもなかなか行けないので、時間をおいて出して

もらいたい。

集会所的な会議室がほしい。最近は公民館もなかなか借りられない。30人くらいで会議できる場所を複合施設につくってもらいたい。

市長：窓口サービスの充実が先決だが、それが整うまでの間等、どうしても本庁に行っていたかなければならないような場合、庁舎間連絡バスを出してほしいとのことだが、そのためには様々なことを検討しなければならない。リスク等もあると思うので、いろいろな面を検討しながら改善していきたいと思います。複合施設のご要望、会議室については検討していきます。

司会：先程のご質問の中で具体的な申請の内容を教えてくださいませんか。

参加者：介護認定の用紙はどちらでももらえるようにしてもらいたい。教育委員会の事務所は本庁でもいいと思う。窓口に行く頻度も少ない。

市長：参考にさせていただきます。

参加者：今日は、決定した内容の説明と、それに併せて要望を聞くということではないのか。

市長：本庁舎の耐震化については、耐震診断をしたうえで、耐震、免震、様々な手法があり、概算は出ているが、決定事項ではありません。

参加者：庁舎がたくさんあるが、こんなに必要なのか。普段使っていない所は分からない。今の規模の庁舎が必要な理由をきちんと説明してもらいたい。150から160億程度の税収しかないのにどうやって払っていくのか。第二の夕張になるのでは。現在職員を減らしているが、最終的には何名にするのか。耐震関係で予算をどのくらい増やすのか。250何億という数字が出た。これといった産業もない。税収はないのにこの差はどうするのか。

市長：現在の庁舎配置状況ではめいっぱい使っている。制度が増えるたびに新しい課をつくったり、窓口スペースを増やしてきたのが実情。第2庁舎も保健センターがあったがフクトピアに移った。支所の新設にあたっては多目的ホール等、市民の方がご利用になるようなスペースを確保していきたいと思っています。財政のお話があったが、職員は合併当初、800名程度おり多額の人件費がかかっていました。同じ10万市の富士見市は600名程度の職員。当市は今年度は新規採用ゼロです。平成27年4月には正規職員で620名程度に抑えようというのが今の計画です。人数を単純に減らすだけでなく、再任用やパート等で経験のある者を雇用して経費を抑えたい。税

収を 140 億程度見込んでいたが、下方修正しなければならないかもしれない。地方債の今年の返済分は 28 億。借り入れは 26 億。若干ではあるが返済分が多くなっています。ふじみ野市の高齢化率は 21%に達しており、超高齢化と言われます。ただし、唯一の救いは子供たちも増えていること。持続可能な街をつくっていくことが求められている中、効率だけを追求するのではなく、ご納得いただけるサービスも提供していきたいと考えております。

市 民：西中から三ヶ島街道へ出るところの通学路が狭い。子供たちが山の中を歩いているよう。木を切ってもらいたい。道路の舗装を端いっぱいまでしないで少し空けるのはどういう理由か。側溝との間に草が生える。年中草むしりをしているような状況。

副市長：境界杭のセンターから側溝を入れてくれば、良いのだが、現場によっては少し安全をみて離すこともあります。側溝清掃を一緒にやるなど方法は考えられます。

参加者：関越の下の三角の所が、非常に歩きづらい。上福岡に向かった場合、左側に信号機があるが段差になっている。お年寄りや自転車は通れない。一度見ていただきたい。警察にも言ったが信号機があるから動かせないと言われた。車イスの人が車道を通っているのも何回か見た。

市 長：県や警察にも働きかけていきます。

市 民：循環バスの利用者は、1 日 1.5 人、経費はどれくらいかかっているのか。高齢者は増えていく。マイクロバスを出したり、より有効的な使い方を考えてほしい。
国家公務員は給与を下げると言っているが、市はどうか。

市 長：循環バスを何とかしないといけないというのは同感です。循環バスは必要なのか、議員にも言われてきました。しかしながら旧大井町で福祉バスとしてスタートし、便利に思っている人もいます。とはいえ、年間 3,000 万近く経費がかかる中、公平性を考えるとバスのあり方を見直していかなくてはならない。路線バスも小型車を増やしてきています。今までは路線バスの走っていない部分を公的な部分で補うということで来ました。便利さを増すためにどうするのか、またバスをやめて交通弱者のためのタクシーチケットを出したらどうなのかという議論もあります。乗車人数は増えたが、恩恵を受けていない人もいます。改善を図っていきたい。私自身は、職員の給与に手をつけるのは一番最後にしようと思って改革を進めてきま

した。職員がサービスを充実しながらコストを下げる努力をすればするほど手をつけずにすむ。そのため、最後にしようというのが基本的な考えです。しかし原資は血税で、国と同一歩調で歩まなければならない部分もあると思います。

参加者：埼玉県公務員の給与は全国で10位以内に入る高い方。ただカットしろと言っているのではない。職員が若いときから人事交流をするなど努力する必要があるだろう。お客さんに対し、担当者はいないという時代ではない。ひとり三役、四役しなければ職員減はできない。

市長：同感です。支所の窓口サービスの中でできるのにやっていない業務があった。プリンターを1台置けばできるものもありました。経験知識が豊富な職員であればひとり二役も三役もできる。もっと充実したサービスが少人数でできる。一般事務については採用しないが、専門職は可能な限り人数を抑えているため、採用が必要になるだろう。320億の予算の中で職員の人件費の占める比率が高いが経常収支比率は93.9%まで回復してきました。借金の比率は低く抑えられてはいるが、組織を動かすのは人であるため、人を育てなければならないというのは全く同感です。

参加者：産業振興課はどういう動きをしているのか。くらしの便利帳を見ると企業がずいぶんあると思った。タイアップしてはどうか。

市長：空き店舗対策、商店街の活性化対策や農業についてもJAとタイアップして振興に取り組んでいます。遊休農地を活用した市民農園をつくる取り組みもあります。七夕まつりは観光事業として所管しています。勤労者の福祉共済会の窓口、商工会とは車の両輪のような事業をしています。

参加者：横の連絡を使って何か取り組んでいるかということを知りたかった。

市長：同業者組合の中での連携は図っていると思いますが、市が直接は関わっていません。ご指摘のような連携も必要だろうと思います。先程もれましたが、産業振興課では制度融資にも取り組んでいます。

参加者：今回のような大きな災害があると、やはり災害に耐え得るものをつくってほしいと思う。税金はみんなに行き渡るように使ってもらいたい。関越から西側は過疎地のように。三ヶ島街道は道路が揺れる。一度連絡したが対応がない。確認に来てほしい。

市長：昨日、一昨日と本庁舎の耐震の件について、何年後というのでもいいのか

という意見や部分的にも防災機能を守れる補強を先にしてはどうかという意見も出されました。今後派遣支援を行う予定ですが、直接被災地の方の意見を伺ってくる必要もあるかと思います。公共施設との連絡手段や防災倉庫の備蓄、防災のマニュアルの見直しも含めて改善を図っていきたいと考えています。また財政が厳しい中、皆さんに納めていただいた税金に対し、きちんとした判断をしていきたい。今日、実は三ヶ島街道も含めた雨水対策の話し合いをしてきました。県道ではあるが、県もなかなか対応できない中で雨水対策についてはやはり地元の自治体でという話。自衛隊通信所の周辺は自衛隊の方に傾斜があるという話や年中家の前に土嚢があるという話もありました。防衛省に要望しに行きたいということも話しています。決して関越から西側に手をつけないということではありません。

参加者：三ヶ島街道は、自衛隊の方からずっと通学路になっている。生垣が垂れ下がって、歩けないようになる。新入生のお子さんの親御さんから言われたりする。持ち主が高齢のため、夫が代わりにやってきたが、木の処分は市にお願いできないか。去年から持ち主は入院しており、空き家状態になっている。

市 長：現場に行って確認し、可能な限り対応します。

市 長：(閉会あいさつ)